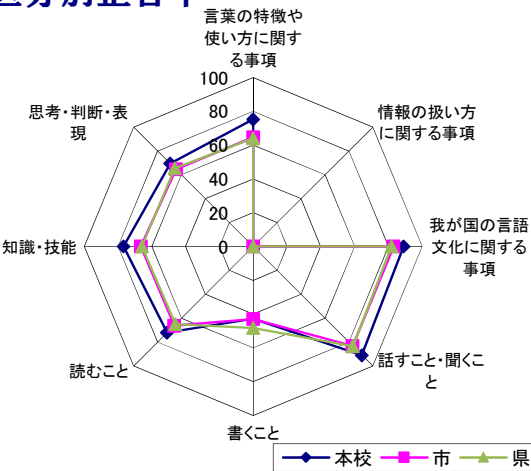


宇都宮市立今泉小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	75.3	64.7	64.1
	情報の扱い方にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化にに関する事項	89.0	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	91.0	83.3	83.4
	書くこと	42.8	42.8	48.2
	読むこと	72.1	66.1	65.1
観点	知識・技能	76.7	66.5	65.9
	思考・判断・表現	69.5	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

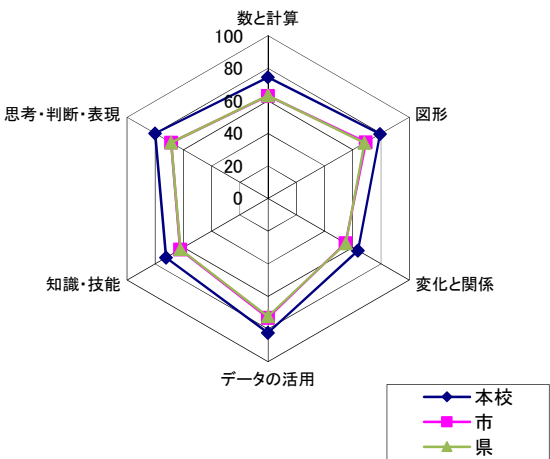
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均を10.6ポイント、県の平均を11.2ポイント上回っている。 ○熟語の漢字の組み合わせを理解して、熟語の意味を捉えることができるかどうかを問う問題の正答率は57.0%で、県の正答率を18.5ポイント上回った。漢字の意味を理解し、熟語を構成する漢字同士の関係性や意味を把握する力が高いと言える。 ○気持ちを表す語句の量を増し、文章の中で使うことができるかどうかを問う問題の正答率は98.0%で、県の正答率を6.7ポイント上回った。気持ちを表す語句がどのような状況で使われるかを理解し、文章の状況や登場人物の心情に合わせて適切に活用する力が高いと言える。 ●文の中における修飾と被修飾の関係を捉えることができるかどうかをみる問題の正答率は18.0%で、県の正答率を3.3ポイント上回ったが、文全体の意味や状況を把握し、修飾と被修飾の関係を正確に捉えるのに課題が見られる。	・文を読んだり書いたりする際に、主語と述語を明確にし、文の構造を理解する力を養う。 ・文中における修飾語の働きを理解できるように、修飾語がある場合とない場合を比較する活動を増やす。 ・文章中から修飾語を見付ける練習を繰り返し行う。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は89.0%で、市の平均を5.9ポイント、県の平均を7.1ポイント上回っている。 ○ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることができるかどうかを問う問題の正答率は89.0%で、県の正答率を7.1ポイント上回った。ことわざの使い方を理解し、正しく活用する力が高いと言える。	・慣用句やことわざにより親しみをもてるように、日常生活のどのような場面で使われるかについて考える活動を取り入れる。 ・学習した慣用句やことわざを使って短文や簡単な文章を書く練習を繰り返し行う。
話すこと・聞くこと	平均正答率は91.0%で、市の平均を7.7ポイント、県の平均を7.6ポイント上回っている。 ○話し合いの目的を確認し、意見の共通点や相違点に着目しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかを問う問題の正答率は97.0%で、県の正答率を12.1ポイント上回った。個々の意見を比較、分析し、自分の考えを表現する力が高いと言える。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉えることができるかどうかを問う問題の正答率は97.0%で、県の正答率を9.3ポイント上回った。話し手の意図や主張を正確に理解する力が高いと言える。 ●司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に、考えをまとめることができるかどうかをみる問題の正答率は84.0%で、県の正答率を6.7ポイント上回ったが、無回答率が5.0%であった。発言内容を基に問題に適する考えを書くのに課題が見られる。	・話し合いの要点をまとめたり、そこから考えられる内容を記述したりする活動を増やす。 ・話し合いの内容を短くまとめたり、重要となるキーワードを抜き出したりする練習を強化する。
書くこと	平均正答率は42.8%で、県の平均正答率を5.4ポイント下回っている。 ●指定された長さで文章を書くことができるかどうかを問う問題の正答率は49%で、県の正答率56.6%を7.6ポイント下回った。指定された条件に合わせて文章を構成する力に課題が見られる。 ●内容の中心を明確にし、事実を伝えたり、自分の考えを伝えたりする文章を書くことができるかどうかを問う問題では、県の正答率を5ポイント以上下回っている。事実を正確に伝え、文章の中心を明確にする力や事実と自分の考えを区別し、論理的に表現する力に課題がある。	・短い文から段階的に長くする練習を重ね、文字数調整の感覚を養う。 ・客観的な事実と主観的な感想を区別する練習を繰り返し行う。 ・事実に対する自分の考えや意見を、具体的な根拠とともに記述する練習を強化する。
読むこと	平均正答率は72.1%で、県の平均正答率を7ポイント上回っている。 ○叙述を基に文章の内容を捉えることができるかどうかを問う問題の正答率は82.0%で、県の正答率を10.8ポイント上回った。文章中の具体的な記述から内容を正確に把握する力が優れている。 ○情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約することができるかどうかを問う問題の正答率は73.0%で、県の正答率を10.8ポイント上回った。文章の要点を的確に捉え、まとめる力が高いと言える。 ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができるかどうかを問う問題の正答率は76.0%で、県の正答率を10.1ポイント上回っている。読んだ内容を他者に伝え、意見交換する力が優れている。 ●文章を読んで理解したことについて、感想や考えを持つことができるかどうかをみる問題の正答率は62.0%で、県の正答率を4.6ポイント下回った。文章の内容を深く考察し、自分の考えを形成する力に課題が見られる。	・読んだ内容を基に、多角的な視点から自分の考えを深める対話活動を増やす。 ・感想や意見の根拠を文章中から見つけ、具体的に記述する練習を強化する。

宇都宮市立今泉小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.5	63.0	63.3
	図形	79.3	69.2	68.3
	変化と関係	63.7	54.8	55.0
	データの活用	82.3	73.1	72.3
観点	知識・技能	72.3	62.3	62.1
	思考・判断・表現	80.1	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

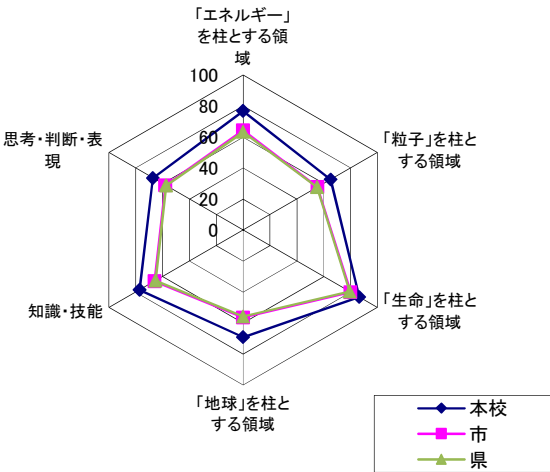
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均を11.5ポイント、県の平均を112ポイント上回っている。 ○整数や小数の計算問題の正答率は、4問とも70%を超えていて、どの問題もよく理解できていると言える。 ●23億が23万の何倍かを答える問題は、市や県の平均を10ポイント以上上回っているものの、正答率が49.0%でやや低かった。	・基本的な四則計算については比較的高い正答率だったが、今後も朝の学習やAIDリルを活用して繰り返し学習することで、正確に計算する力を身に付けることができるようにする。 ・分数や小数について、数直線やテープ図を使って表したり、言葉で説明したりする活動を意図的に取り入れ、仕組みや表し方についての理解が深まるようにしていく。 ・大きい数の仕組みについて、位取り表などを活用して数を表したり、もとにする数のいくつかの分なのかを表したりすることで、理解が深められるようにしていく。
図形	平均正答率は、市の平均を10.1ポイント、県の平均を11ポイント上回っている。 ○立方体と直方体の違いを選ぶ問題の正答率は96.0%で、全領域の問題の中でも最も高い正答率だった。 ●三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める式を選ぶ問題は、市や県の平均を上回っているものの67.0%でやや低かった。三角定規の角の大きさの理解が十分とは言えない。	・三角定規の性質について理解が深まるよう、丁寧に指導していく。また、三角定規を組み合わせてできる角の求め方についても4年生の図形の学習で丁寧に扱えるように指導を工夫していく。
変化と関係	平均正答率は、市の平均を8.9ポイント、県の平均を8.7ポイント上回っている。 ○●表を縦に見て、伴って変わる2つの数量の関係から年齢を答える問題の正答率は72.0%で、変化と関係の領域の中では最もよくできているが、市や県の平均をやや下回っている。 ●割合が基準量の何倍かで求められることを理解しているかみる問題の正答率は市や県の平均を上回っているものの正答率は54.0%でやや低かった。	・2つの数量の関係を見比べ、変化の様子を見立てて考えることは、理解が高い。今後も2つの数量の関係を読み取ったり、それを式に表したりする学習を丁寧に進めていく。 ・割合の学習について、既習の考えを使って式や言葉を使って考えたり説明したりする活動を意図的に設け、理解が深められるようにしていく。
データの活用	平均正答率は、市の平均を9.2ポイント、県の平均を10ポイント上回っている。 ○二次元の表の意味を理解しているかみる問題の正答率は2問とも80%を超えており、十分に理解していると言える。 ●データの活用の領域は4問とも高い正答率だったが、折れ線グラフの傾きから変わり方を読み取る問題の正答率は80%を下回っていた。	・グラフから読み取ったことを説明することができるよう、データの特徴を捉え考察したり、データから見いだしたことを根拠となる数に着目して表現したりする時間を多く設定する。 ・日頃から、根拠を明確にして自分の考えを説明することができるよう、言葉や数を使って簡潔に説明する機会を多く設ける。

宇都宮市立今泉小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	76.8	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	65.3	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	86.5	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	69.1	56.4	55.8
観点	知識・技能	77.2	66.0	65.3
	思考・判断・表現	67.2	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均を12.5ポイント、県の平均を13.6ポイント上回っている。 ○全ての問題で市や県の平均を上回っており、検流計のしくみや電流の向きや大きさについてよく理解できていると言える。 ●電流が流れない回路を流れるように改善できるかどうかをみる問題の正答率は、県や市の平均を4ポイント以上上回っているが、正答率が69.0%とやや低かった。	・今後の学習でも、実験で身に付けさせたい基本事項をしっかりと押さえて実験に取り組み、理解が深められるようにする。 ・簡易検流計の使い方や特徴について、事前にきちんと確認したうえで実験に取り組み、理解の定着を図る。また、積極的に使う機会を設定し、5年生の電流計の学習につなげていきたい。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均を9.9ポイント、県の平均を10.2ポイント上回っている。 ○空気と水をあたためたときの体積の変化の程度の違いを比較して答える問題では、市の平均を17.7ポイント、県の平均を20ポイント上回っており、空気と水をあたためたときの体積の変化の程度の違いを理解している児童が多いと言える。 ●湯気について理解しているかどうかをみる問題では、市の平均を4.2ポイント、県の平均を3.4ポイント上回っているが習熟の程度に課題があると言える。	・空気と水を温めたときの体積の変化を実験をもとに考えられていることが分かった。今後も、実験・観察を通して分かったことと身の回りで起こる現象についての関連を教師から補足説明するよう心掛け、科学的な見方を養っていく。 ・水のすがたの実験では、教科書の実験だけではなく、発展的な課題として他の方法を試したり、動画を活用したりして、多面的に現象を捉えられるよう工夫する。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均を6.4ポイント、県の平均を7.2ポイント上回っている。 ○植物の成長の様子や動物の越冬について答える問題の正答率は90%を超えており、よく理解できていると言える。 ●骨のはたらきについて理解しているかどうかをみる問題の正答率は市や県の平均を超えているが、62.0%とやや低い。	・学習した内容が身近な生活や社会の中でどのように生かされているのかを考えることで興味をもって主体的に学習に取り組むことができるようにし、より一層理解が深まるようにする。 ・身近な自然を観察する時間を十分確保するとともに、デジタル教科書や動画の視聴などを通して、自分たちでは経験できない実験や観察の疑似体験を多くさせることによって知識の定着を図る。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均を12.7ポイント、県の平均を13.3ポイント上回っている。 ○雨の日の気温を示したグラフを選び、その理由を答える問題は県の平均を19.1ポイント上回っており、1日の気温変化に着目して天気を考えることができていると言える。 ●窓に結露が発生する理由と、結露の水滴がつく場所について考える問題では、県や市の平均を超えているが、正答率が34.0%と低い。	・教科書の実験と同様の問題や語句を答える問題の正答率は高いことから、今後も基本事項を丁寧に学習していくことが求められる。 ・グラフを読み取り答える問題では、基本問題であるが正答率が61.0%とまずまずの結果であるため、授業等でグラフを自分で読み取る力を高めていく。 ・水のすがたの学習については、基本事項を学習した後に、日常との結びつきが得られるような時間を取り入れる。

宇都宮市立今泉小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」と肯定的に回答した児童の割合は72.0%で、県の平均より3.9ポイント高い。また「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。」と肯定的に回答した児童の割合は78.0%で、県の平均より8.8ポイント高い。児童の調べ学習の意欲をさらに伸ばすため、本やインターネットを活用した効果的な情報収集・分析の指導を継続し、探究活動を一層充実させていく。

○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」と肯定的に回答した児童の割合は97.0%で高い。今後も、学習内容が将来役立つと実感できるよう、実社会との関連を意識した指導や体験活動を推進し、学びへの意欲をさらに高めていく。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで取り組んでいる。」と肯定的に回答した児童の割合は86.0%で、県の平均より8ポイント高い。また、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」と肯定的に回答した児童の割合は97.0%で、県の平均より6ポイント高い。話し合い活動への積極的な参加が見られるため、今後対話を通じて多様な考えに触れ、課題解決能力を育む協働的な学びを一層推進していく。

○「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」と肯定的に回答した児童の割合は80.0%で、県の平均より7.3ポイント高い。身近な問題を授業の中で話題にしたり、学習の中で地域の魅力を調べてまとめたりしている効果が表れている。今後も、身近な問題について話し、考えを伝え合うような活動に取り組んでいく。

●「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」と肯定的に回答した児童の割合は66.0%で、県の平均より9ポイント低い。また、「家で、学校の復習をしている。」と肯定的に回答した児童の割合は61%で県の平均より5.8ポイント低い。このことから、効果的な家庭学習の方法を具体的に指導し、学校と家庭が連携して自律的な学習習慣の定着を図っていく。

●「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている。」と肯定的に回答した児童は57.0%で、県の平均より8.3ポイント低い。家庭学習の習慣化のため、毎日同じ時刻に机に向かう「学習タイム」の設定を推奨するなど、具体的な方法を提示し、支援に努める。

●「早寝、早起きを心がけている。」と肯定的に回答した児童の割合は70.0%で、県の平均より6.7ポイント低い。早寝早起きなど規則正しい生活習慣の定着は、児童だけでなく家庭にも生活リズムの重要性を継続的に伝え、学校と家庭が連携して児童の健康的な生活習慣づくりを支援していく。